

宿題の扱いをどうするか？

R5,4月6日

釧路市立芦野小学校校長 高島 昌之

いよいよ新学期が始まり、学校に活気が戻ってきて楽しく過ごしています。さて、4月6日付で「宿題や家庭学習」の取組についての情報は各家庭に伝わっていると思います。芦野小学校は、宿題の提出率が高いです。今日は、「宿題の取組」について校長の想いや考えを紹介したいと思います。

芦野小学校は自己肯定感の高い子どもを育みたいと考えています。自己肯定感は「自己決定と自己責任」の生き方をすることで高まります。この生き方をしていないと目の前の課題を自分の課題として受け止められず周りの課題にすることで責任を負わない依存的な生き方を身につけてしまいます。

宿題のねらいには、下記の3つがあります。

1. 学力の定着 ～ 授業内容の復習や基礎的なスキルの定着を図る。
2. 学習習慣づけ ～ 家庭で自ら取り組む「自学学習」を身につける。
3. 提出物の習慣づけ ～ 提出物が多い学校文化で提出物を出す自己責任の習慣をつける。

そもそも学習することは、誰の課題なのか？宿題は誰の課題なのか？宿題をどうやってやらせようかとイライラして怒ったり、おだててその気にさせようとしているとしたら、宿題は親の課題になってしまいます。宿題は、子どもと学校の課題であって、親の課題ではありません。宿題をしてこないからといって学校では怒ったりしません。淡々と穏やかに下記の関わりをしていきます。

1. 宿題をやって来ない場合は、下校までに時間を見つけて取組んで提出してもらいます。
2. 宿題をやったけど忘れた場合は、翌日に提出してもらいます。翌日も忘れた場合は、下校までに取組んで提出してもらいます。

本当はやっていないのに「やったけど忘れました」という例もありますが、本人の「やったけど忘れた」という申告があれば認めていきます。「やっていないことを潔く申告して再取組みをする」か「やったと偽って再取組みを逃れる」のか？「ばれなくてラッキー」と「ばれなかったけどモヤモヤするから次は正直に言えおう」のどちらを選ぶのか？それは、自分で決めてもらいます。

これは、どのような生き方を“良し”とするのかという「生き方の美意識」の問題です。学校では「宿題は自分の課題である」ということを伝えて、どうするかという決断に責任を持つ（責任とは約束を守るということ）という「自己決定・自己責任」の生き方が勇気のある生き方だと促していきます。

1. 子ども達との契約内容（芦野小スタンダード）

	頻度	ルール	忘れた時のペナルティ
宿題	義務目標	朝提出	下校するまでに時間を見つけてやる
家庭学習	努力目標	朝提出	なし

2. ねらい

宿題のねらい	学習の基礎基本定着・授業の復習・学習習慣・提出物習慣
家庭学習のねらい	自分で工夫して取り組む力をつける（自学学習・主体性）
毎日提出のねらい	継続して取り組むスタミナと習慣をつける
ペナルティのねらい	課題を先延ばしにしないで解決する力をつける